

社会の授業の学び合いにおける授業改善

～目的を持たせた仲間との学び合いの工夫～

南姫中学校 社会科 市川 智英

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・ 仲間との交流、言語活動の充実

2 具体的な実践

(1) 仲間との交流の目的を明確にする。

①個人追究をしたが、意見がまとまっていない生徒

→相手の意見を聞きながら、自分の意見をまとめる。

②個人追究をして、意見がまとまっている生徒

→どう説明すると、相手により伝わるかを考えて、工夫しながら伝える。

「仲間から学ぶ」「自分の理解を深める」ことと、言語活動の充実、仲間との学び合いという観点から、社会科の個人での追究を行ったあとに、自分の気づいたことを伝える活動として、ペアでの意見交流を位置づけることとした。このペア学習は周りの仲間と交流するにあたり、自分の状態に合わせて上のような目的を意識して学習することとした。

この学習の結果、生徒の中で、資料のどこから気づいたのかを示しながら話す姿や、相手の反応を見ながら交流する姿が増えた。



(2) 根拠を視覚化して示しながら行う交流の工夫

全体交流を行う場では、「資料〇の□□から…ということがわかって、だから△△だと思います。」のように、基本的な話し方の指導を行ったが、聞き取りに苦手を感じている生徒もおり、資料をどう読み取ったのかの交流がうまくいっていなかった。そこで、生徒が個人追究で用いる一枚資料を黒板に拡大したものを貼り、生徒がマジックで書き込みながら意見を述べる全体交流を行うように工夫を行った。

この学習の後、授業の振り返りの中で、生徒からは、以下のような意見が挙げられるようになった。

- ・ どうやって資料を読み取ればいいのか、少しわかるようになってきた。
- ・ 資料のどこを見ればいいのかが見えるから、仲間が何を言っているのかがわかりやすくなった。
- ・ こうやって説明するとわかりやすくなるということがわかってきた。

3 実践を振り返って考えられること

仲間とのペア学習に意味をもたせる工夫や、根拠を視覚化して交流を行う工夫は、個人追究のスキルアップや仲間からの学びを深めることを目的にしてきたが、それらと共に、相手に伝えることの工夫をすることにもつながり、「相手意識」を高めることにもつながった。この相手意識が、話す・聞くの基本姿勢をさらに強化することにもつながった。